

# トップインタビュー

スピーカー： キリンホールディングス㈱ 代表取締役社長 加藤壹康

撮影： 2008年2月下旬

テーマ:平成19年12月期決算概況、飛躍的成長を目指したキリングループの今後の展開について

1. 平成19年12月期決算概況と平成20年見通しについて
2. 協和発酵グループとの提携と豪州ナショナルフーズの100%子会社化について
3. 中期経営計画の進捗とキリングループの今後の展開について
4. お客様、株主様へのメッセージ

## 1. 平成19年12月期決算概況と平成20年見通しについて

Q: 平成19年12月期は、増収増益。特に純利益が大きく伸びたようですね。

A: はい。キリンビールは、昨年創立100周年を迎え、7月には純粋持株会社制へ移行し、キリンホールディングスとして新しいスタートをきりました。

アルミ缶やモルトなど原材料価格の高騰や国内消費の伸び悩みなどの影響で、国内の酒類や飲料事業は大変厳しい経営環境でした。売上では、新たにメルシャン社がグループに加わったため、増収に大きな寄与をしました。一方で、グループ各社のコスト削減努力や海外酒類事業、医薬事業の貢献などがあり、グループ総合力で増益を達成しました。また、工場跡地など保有資産の整理・処分を積極的に進め、当期純利益は大きく増加しました。

Q: 食品業界は、どの会社も原材料高騰で苦しんでいます。キリングループは、今期も増収増益予定のようですが、見通しについて教えてください。

A: はい。原材料や原油価格高騰は昨年だけの一時的な問題ではありません。弊社もコスト削減については最大限努力しておりますが、吸収し切れない程今期も影響が大きいと考えているため、2月よりビール類の値上げを実施しています。お客様にもご理解頂ければと思っております。我々も皆様のご期待に沿えるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

今期に関しては、後ほどご説明しますが、昨年末におこなった提携などで新しい会社がグループに加わり、それらの連結業績への貢献が具体的にあらわれてきます。連結売上高2兆1,000億円、営業利益1,330億円の増収増益を目指します。

## 2. 協和発酵グループとの提携と豪州ナショナルフーズの100%子会社化について

Q: 今お話になられたように、昨年末は、協和発酵グループとの提携、そして、オーストラリアNo.1の乳製品・果汁飲料会社であるナショナルフーズの全株式を取得しました。キリングループは大きく規模を拡大しましたが、その目的・狙いを教えていただけますか？

A: はい。2006年5月に長期経営構想「KV2015」を発表しました。10年後に向けて飛躍的成長を遂げるためのキリンググループの計画です。「食と健康」領域でアジア・オセアニアにおけるリーディングカンパニーを目指す、というものです。

その計画に従い、2006年にはキリンビバレッジを完全子会社化し、メルシャン社と業務・資本提携を行いました。2007年には、純粋持株会社となり新しい組織の下、協和発酵グループとの提携、豪州のナショナルフーズの完全子会社化を行い、飛躍的成長のための基盤づくりをしています。

Q: 協和発酵グループとの提携では具体的にどのような面で期待ができるのでしょうか？

A: 医薬業界もグローバル競争、新薬の研究開発費用の増大など環境が大きく変化しています。そんな中、キリンググループとして成長加速や競争力の強化を実現するとともに、技術の相互補完できる企業として協和発酵がベストパートナーと判断しました。医薬事業では、がん、腎臓、免疫疾患を中心とした領域で抗体医薬技術を核とした最先端のバイオテクノロジーを駆使し、世界トップクラスのスペシャリティファーマを目指します。また、医薬以外の事業でも両グループでの統合と展開を期待しています。

Q: なるほど。では、オーストラリアのナショナルフーズ社はどんな会社なのでしょう？

A: ナショナルフーズはオーストラリア No.1 の乳製品・果汁飲料会社です。100年以上の歴史の中で築いた強力な商品ブランドや24箇所の製造拠点を持っています。「ピューラミルク(Pura Milk)」や「ヨープレート(Yoplait)」というブランドなど、チーズなども展開しています。同社は、オーストラリア No.1 の飲料事業会社ベリー社(Berri)を傘下に収めており、オーストラリアで圧倒的な基盤を持っています。ニュージーランドやマレーシア、インドネシアなどにも拠点を広げています。今回100%子会社化したことにより、キリンググループは「食と健康」の領域でアジア・オセアニアでの基盤の確立と国際化を進めることができました。今後もシナジーを創出させ、アジア・オセアニアのリーディングカンパニーを目指します。

### 3. 中期経営計画の進捗とキリンググループの今後の展開について

Q: 昨年は、2007年から2009年にかけての中期経営計画「KV2015ステージ」の初年度でした。進捗状況はいかがでしょう？

A: おかげ様で、営業利益は着実に成長しています。ただ、中計策定時と比較すると、原材料価格の高騰、国内飲料・海外ビールメーカーの業界再編加速など、取り巻く環境は急速に変化しており、よりスピード感のある経営判断と展開を必要としています。一方、キリンググループでは、大型のM&Aや戦略的提携などにより中計の定量目標を前倒して達成できそうです。中計の目標については、8月に見直す予定でいます。

Q: キリンググループの今後の展開について教えてください。

A: 既存の事業会社による着実な成長に加え、提携したメルシャン社、協和発酵グループやナショナルフーズ社と成長基盤づくりを迅速に進め、国内外においてグループシナジーを

最大化させなければなりません。中期計画、長期計画の達成を目指し、アクセルを緩めることなく邁進していきたいと思っています。

#### 4. お客様、株主様へのメッセージ

Q: 最後にお客様、株主様へのメッセージをお願いいたします。

A: はい。冒頭でもお話させていただきました通り、おかげさまで当社は創立 100 周年を迎え、新たなスタートをきる事が出来ました。

今後も「おいしさを笑顔に」のローガンのもと、お客様に常に喜んでいただける商品やサービスを提供していけるよう努力してまいります。

また、さらに株主還元策の充実をはかるように努めてまいります。今期の配当は年間で 23 円と 5 期連続の増配予定ですが、配当だけではなく、企業価値を高めることにより、株主様のご期待に沿えるよう努力してまいります。

今後ともキリングループをご支援いただきますようよろしくお願い申し上げます。

Q: 加藤社長、本日はどうもありがとうございました。

A: ありがとうございました。

以 上